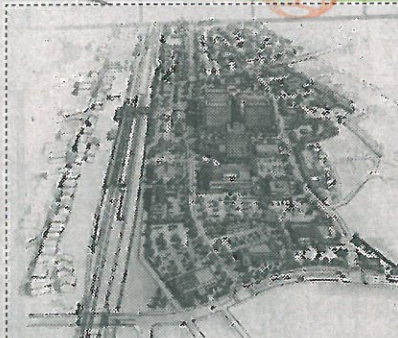


広野町 駅東側開発事業が起工

用地造成と避難路2路線

広野駅東側第1期開発整備事業の安全祈願祭と起工式が20日、広野町下浅見川の双葉農業普及所敷地内で行われ、関係者が町の復興ゾーンの着工に期待を示した。

起工したのは広野駅東第1期開発整備区域用地造成、避難路となる町道折返宮田線と同広長久保田線の道路新設工事。各種事業所、研究機関を誘致する産業用地7万6800平方メートルを27年3月までに造成する。施工は造成が田中・西本特定JV、町道折返宮田線は山田組、同広長久保田線がとさわ工業。



安全祈願祭では遠藤智広野町長、浜田昌良復興副大臣、木下弘之田中建設社長らがクワ入れを行った。起工式では遠藤町長が「双葉地域の復興拠点の役割を果たす」とあいさつした。



山く福島PPPチーム職員(上)と関係機関協議する職員ら

【広野駅東側の復興事業が始まります】

本日10月20日(月)、広野駅東側開発整備事業(第1期)の安全祈願祭、起工式が執り行われました。

この事業は広野町が行うもので、全体14.55ヘクタールのうち、第1期では事業所や研究機関等を誘致するための企業用地等7.65ヘクタールの造成が行われます(富岡土木事務所の仮設庁舎もこの一角をお借りしています)。第2期では残りの6.9ヘクタールに住宅地が計画されています。

当事務所が担当する防災緑地や堤防、道路等の整備と併せて、広野町のまちづくりがさらに進んでいます。



広野駅東側開発整備事業(第1期、第2期)イメージ



を実現

山く福島PPPチーム職員(上)と関係機関協議する職員ら

設計業務等に対する指導・調整等②地元・関係行政機関との協議等③事業監理等④などを民間と連携して進める。

霊山く福島PPPチームの体制は「下段別表」の通り。管理技術者の柳橋巧さん(センターラ)が全

貢献したいと考えている。これまでの業務と技術的にもだいぶ違う。興味もあった」とPPPに参加した動機を話す。

に執務室があるのは大きなメリットだという。協議、打ち合わせなどは事務所担当職員に同行

福島建設工業新聞

発行所
福島市西中央2丁目59
(郵便番号960-8074)

福島建設工業新聞社
電話(024)534-7456(大代表)
©福島建設工業新聞社
公社日本専門新聞協会加盟紙

ホームページ
ホームページアドレス
<http://www.fk-news.co.jp>
e-mail
hensyu@fk-news.co.jp

経費削減 企業合理化の決め手

TOYOTA
レンタリース

024(941)2131

HP: www.toyota-renta.co.jp

経費削減 企業合理化の決め手

TOYOTA
レンタリース

024(941)2131

HP: www.toyota-renta.co.jp

主な実務
主者との調整②PPPチーム内の管
関連機関との主要打ち合わせ
案・リスク一覧表の作成③協議先
の打ち合わせ、技術的指導、進捗
関との協議資料作成方針検討、協